

藝園と草牧

沼町字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社
中央研究農場



雪印種苗株式会社

欧州園芸行脚 (6)

オランダ式セリ市風景

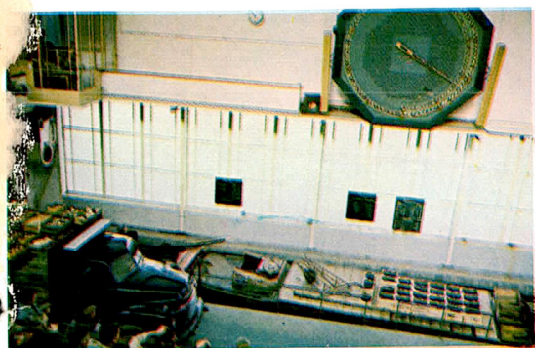
沢田 英吉 北海道大学農学部 園芸第一教室 教授



1 買人席

オランダ名物の一つに、時計式セリ市がある。果実野菜花類のセリ市であって、いたるところでみることが出来る。

セリのやり方は、写真1でみられるように、買人席が階段状に作られている。その正面のところに、直径3m近くもある円い時計板様の円板が取り付けられている(写真2)。その周縁に0から100まで目盛りがしてある。時計の6時に相当するところが50で、12時のところが100になっている。これは、品物1kg当たりの値段を示す。時計と同じように針もあるが、それはたゞ1本だけである。そしてその針は電気仕かけでかなり早い速度で回転する。但し回転方向は時計とは逆に100から80、50、30というふうに廻る。



3 マスター

時計板と買人席との間にかなりのスペースがとってあるが、ここにセリにかけられる現物が運び込まれる。トラックに積まれたり、舟で運ばれたり(写真2)。

時計板の近くで、小高いところにセリ市のマスターの席がある(写真3)。マスターはセリの運営係りの役を演ずる。例えば、拡声機で「次はトマトの第何号」といったように場内にアナウンスして、ボタンで時計の針を動かす。針は大きな数字から順次小さい数字に向かって廻ってゆく。つまり、高い値から安い値に向かってセリ下げられてゆくのである。その針の動きを注視していて、その針が自分のセリおとしたい値のところに来たときに、買人は自分の机に仕かけてあるボタンを押す。すると、その瞬間に針はピタリ

その値のところまで停止する。と同時に時計板の中央部に設けられた多数の豆ランプの内の1つに電気がともり、買人の席番号を知らせる仕かけになっている。これで何番の席の買人が幾らの値でセリおとしたかが一目瞭然決まるのである。

日本のセリ市では、むやみに大声のみ張り上げて喧騒の極みであるが、時計式だと誰1人声を出す者もなく静寂そのものである。悠々とコーヒーなど飲みながらジッと正面の針の動きを見守っているだけである。



2 時計板とセリにかゝる現物の搬入

次に日本の場合には、1つの品がセリオとされるまでにはかなりの時間を要するが、オランダ式だと僅か5~6秒よりかからない。だから1時間に500点もセルことが出来る。日本とは比較にならない能率の良さである。

更にセリ上げと異なり、セリ下げをする場合には、ボヤボヤしていると、他の買人にセリオとされてしまうから、勢い先を競ってセリオとす傾向になる。買人の心理状態をうまくつかんで高値にセラせる仕組みになっている。このセリ市が建物は何論あらゆる経費が農民の共同出資によってまかなわれていることと思わせると、その妙策に感心させられる。

きところによると、わが国でも大阪で今度新たに時計式セリ市が採用されたということである。この方がどんなに現代的か知れない。



4 セリ市に持込まれたトマトの荷